

子宮頸がん予防（HPV）ワクチン定期予防接種のご案内

子宮頸がん予防ワクチンは、平成25年4月から定期接種となりましたが、接種後の痛みや運動障害などの症状の報告が相次いだことから、平成25年6月より、厚生労働省の勧告に基づき、積極的におすすめすること（予診票送付）を差し控えていました。その後、国の検討部会で「ワクチンの安全性について特段の懸念は認められない」と確認されたため令和4年4月から定期接種の積極的勧奨が再開しました。令和7年度までは2価、4価、9価の3種類のワクチンが定期予防接種で使用できるワクチンでしたが、**令和8年度からは9価のみとなりました。**接種の対象の方は、有効性・リスク等を十分理解した上で接種を受けてください。

- 接種対象者 小学校6年生～高校1年生相当の女子
- 接種場所 別紙「予防接種協力医療機関」子宮頸がんに○印のある上伊那郡内の医療機関
※予約が必要です。
- 接種費用 公費（無料）
- 持ち物 予防接種予診票（伊那市発行のもの）・母子健康手帳
- 接種間隔・回数

※高校2年生になると任意接種扱いとなりますので費用（3回接種で約10万円～12万円）が全額自己負担となります。

ワクチン名	標準的な接種間隔	標準的な接種間隔でできなかった場合
9価ワクチン (シルガード)	①1回目接種を15歳までにした場合（2回）※ 2回目：1回目の接種から6月以上あけて ※5月未満の場合は3回目の接種が必要です。 (3回目は2回目から3月以上あけて接種)	2回目：1回目の接種から1月以上あけて 3回目：2回目の接種から3月以上あけて
	②1回目接種を15歳になってからした場合（3回） 2回目：1回目の接種から2月あけて 3回目：1回目の接種から6月あけて	

※令和8年度から2価ワクチン（サーバリックス）と4価ワクチン（ガーダシル）は定期接種のワクチンではなくなりました。

〈子宮頸がんとは〉

子宮頸がんとは、女性のがんの中でも比較的若い世代に発症しやすいがんで、「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染が原因と考えられています。このウイルスは、性的接触のある女性であれば50%以上が生涯で一度は感染するとされている一般的なウイルスです。HPVに感染しても、多くの場合ウイルスは自然に消えますが、その一部が子宮頸がんを発症します。感染後、どのような人ががんになるかはわかっていないため、予防接種でHPV感染を防ぐことが大切です。

〈HPVワクチンの効果〉

HPVは100種類以上の型があり、HPVワクチンはこのうちの一部の感染を防ぐことができます。シルガード9は、子宮頸がんを起こしやすい種類である16型、18型に加え31型、33型、45型、52型、58型の感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80%～90%を防ぎます。

〈シルガード9 接種後の主な副反応〉

発生頻度	接種部位の症状
50%以上	疼痛
10～50%未満	腫れ、赤み、頭痛
1～10%	めまい、悪心、下痢、かゆみ、発熱、疲労、内出血など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血、血腫、倦怠感、硬結など
頻度不明	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

※シルガード9 添付文書より

■ HPV ワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他性感染症全般についての相談窓口

【感染症・予防接種相談窓口】

電話番号：0120-995-956

受付時間：月曜日から金曜日 午前9時～午後5時（祝日、年末年始を除く）

- ・ この窓口では、HPV ワクチンを含む、予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他の感染症全般についての相談にお答えします。
- ・ この窓口は、厚生労働省より委託されている民間業者により運営されています。

【長野県 相談窓口】

長野県健康福祉部 感染症対策課 感染症対応担当

電話番号：026-235-7148

受付時間：月曜日から金曜日 午前8時30分～午後5時15分（祝日、年末年始を除く）

- ・ 接種後の副反応について、受診する医療機関がない等について相談できます。



〈お問合せ先〉伊那市役所健康推進課予防係 電話0265-78-4111 内線2332